

文化振興ビジョンを推進するための懇話会 第2回会議概要

1 日 時：平成 25 年 8 月 30 日（金） 15：00～18：30

2 場 所：小田原市役所 大会議室

3 出席者

(1) 委員（9名）

畠山座長（途中退席）、鬼木副座長、牛山委員、小川委員、杉崎委員、露木委員、深野委員、神馬委員（途中参加）、間瀬委員（芸術文化担当課長）

(2) 行政（7名）

諸星文化部長、原田文化部副部長、瀬戸管理監、中津川文化政策課長、諏訪部文化政策係長、高瀬芸術文化創造係長、坂爪主事

4 傍聴者 2名

5 会議の概要

(1) 小田原市文化連盟との意見交換会（小田原市文化連盟参加者 8名）

①座長挨拶

- ・ この懇話会は名称のとおり、昨年3月に策定された「小田原市文化振興ビジョン」を推進するための懇話会として設置された。
- ・ 主要な担い手の皆様と意見交換をさせていただき、今後の議論に反映させていただきたいということで設定させていただいた。併せて、皆様の活動に資することになればありがたいと考えている。
- ・ この懇話会は、これまで推進体制を主に議論してきた。文化振興ビジョンを推進していくためには、プラットフォームが必要ではないか。文化というと、芸術文化、生活文化、広くとると日々の生き様まで入ることになる。ビジョンの視点としては担い手、鑑賞する市民、後継者、子供、市役所などの「人」がある。もう1つの視点は発表・練習の場、地域、教育・学校の間などの「まち」あるいは「場」。そういう人や場の機能が交じり合っ、情報交換、相談、協力、宣伝をし合う、コーディネートする機能としてプラットフォームというものが必要ではないか。ということを議論してきた。
- ・ 今日、皆様の実情や考え、何を必要としているのかなどをお聞かせいただきたい。

②意見交換

<担い手について課題があるか、それに対する取り組みについて。>

(西相美術協会)

- ・ かなり前から高齢化が進み、若い人達が入会しないという課題がある。小田原で展覧会をすることで喜びを感じる機会がないのが現状である。地元に残って絵を描こうとする結びつきがない。小田原の中で感動することが大事なのではないか。近年、展覧会の中で高校の部を設けている。学校回りをし、美術系の学校を目指している人達の出品を呼びかけている。200点くらい集まってくる状況である。学校祭などに出かけて行って直接生徒に呼びかけている。少しずつ浸透している。

(神奈川県西写真連盟)

- ・ 写真に関しては、ユーチューブなど様々なメディアが登場しているので、若者は単なる写真だけでは物足りなくなってきたり、写真クラブなども衰退している状況である。一番若手で40歳台である。しかし、定年後の年齢層では写真人口は多くなっており、サポート、フォローアップして若者でなくとも十分に担い手になっている状況である。市美展でギャラリートークを行なったが、こちらの評価を話してみても納得して次につなげることが重要だと感じている。

(小田原書道連盟)

- ・ 高齢化と若い人達にどう加わっていただくかが問題になっている。展示会への出品を旭丘高校、相洋高校などに直接アピールをしている。評価される喜びを感じてほしいと思い、褒賞をたくさん作って励みにしてもらおうと思っている。道と名のつくものは、人口が減っており、出来るようになるまで時間がかかるが、少しでも高校生のときに評価されたという喜びがあれば、後々戻ってきてくれるのではないかと考えている。出品料を無料にしたり、表具屋と掛け合ったりして高校生の出品を募っている。

(西相美術協会)

- ・ 一番悩んでいる問題は、現状では感動する場がないし、本物に触れて感動したということができない。施設については、新しいホールが出来れば解決すると思うが、感動する場を作らないと文化は衰退する。

(劇団こゆるぎ座)

- ・ 実践、行動をしている立場から言うと一般市民の文化、つまり大衆芸術は重要である。大衆芸術といってもレベルの低いものではない、市民の中で輝いていて、人をひきつける力を持っているものである。文化を引き継ぐ人の心を育てることが必要だと思っている。自分の文化とはなんだろうとみんなが考えて、そこに到達してもらいたいと考えている。

(小田原謡曲連合会)

- ・ 小田原城で実施されていた一流のものを見せていた薪能が数年前に終わってしまった。謡曲は馴染みが薄い。一朝一夕にもものになるものではない。今年初めてワークショップを行なう。少しずつでも、子どもたちに謡曲や日本文化に触れてもらい、

(小田原史談会)

- ・ 高齢化は課題であり、会員が年々減少しているのが現状である。ホームページをつくったら史跡めぐり等、遠方からの参加者が増えたが、会員になるところまではいっていない。地域がかつて歴史の研究会を開催していた地域の歴史研究者を発掘していきたい。シルバー大学歴史観光学科がなくなってしまったこともよりどころを失ったひとつである。

(小田原洋舞連盟)

- ・ 舞踊は踊れるようになるのは10年、20年の月日がかかる。舞台をつくり生徒と一緒に感動するものをつくるそれが目的である。子どもたちが各自の節目で抜けていってしまうことが残念である。

<情報発信について、会員の募集、催しの案内などご苦労されていると思うが、HPをつくっている団体はあるか。こんなものがあればというようなご意見はあるか。>

(西相美術協会)

- ・ 展覧会は公募なので、出品してくれた人とは話し合う機会を持っている。また写生会に参加してくれた人とはコンタクトをとっている。写生会の後には展示会をして、写真も展示したりしており、少しずつ広げていくように工夫している。絵描きはもともと外に向けてPRしないが、それではいけないので、やっている。一般へのPRは十分ではないと思っている。ポスター、チラシなど作成するがお金がかかる。

(神奈川県西写真連盟)

- ・ HPは団体としてはつくっていないが、個人で持っている。更新するのが大変である。

(西相美術協会)

- ・ 行政の窓口に来る人は間口が狭い、西武百貨店などで展覧会を開催して、PRを進めている。

(小田原史談会)

- ・ 会報をHPに載せている。

<文化連盟の加入条件は>

- ・ 入会に関する規則がある。芸術文化を主体としたサークルであること。単一団体ではなく連合体であること。(劇団こゆるぎ座と小田原フィルハーモニー交響楽団は発会時に加入していたため単独となっている。)

<文化連盟に入っているメリットはなにか>

- ・ 市民文化祭に参加することができる。

- ・ 文化連盟は優遇されて過ぎているのではないか。という苦情が出て来はじめている（会場、助成金など。）
- ・ 小田原は素晴らしい、人も温かい。いろいろな素材が眠っている。素晴らしい小田原をどう活かすか。小田原文化の発展のために、人と人の気持ちをうまくつなぎ合わせる事が大事。古い団体が実績を残し続けてしまうのも問題なのではないか。
- ・ 文化連盟の中にいると、自分たちの団体だけでなく他の団体と接することができる。ここが重要なのではないか。

(2) 文化団体等との意見交換会（文化団体等参加者 21名）

①座長挨拶

前述と同様。

②意見交換

<活動の広がり、担い手など課題及びその課題に対しての今後の進め方>

（社団法人日本詩吟学院認可駿河岳風会）

- ・ 日本独特の和歌や俳句などの文化を子どもたちに広げたい。一番苦勞しているのは会場についてである。小田原は交通の便が良いので市民会館を使用している。その際に小田原市民に向けて紹介をして、PRなど協力してもらいたい。一般の人は入場無料なので、ぜひ見て聞いていただきたいと考えている。

（小田原文化サポーター）

- ・ レセプションの派遣、チラシの挟み込み、影アナ派遣を行なっている。30名程度のメンバーで活動しているが、もう少し担い手がほしいと思っている。情報発信は、市の広報、タウン誌、チラシなどで行なっている。課題は事務局を文化政策課に頼らざるを得ない状況にあることである。また、派遣先の団体からの謝礼は交通費と事務費500円のみである。研修等も行なっているが自費で行なっている。新しいホールができたときに東京などに負けないおもてなしをして音楽を聞いていただきたいという思いから出来た団体である。あと少しでホールもできるので、担い手を育成して存在意識を高めていきたい。市民活動で行うのはなかなか大変である。事務所をみんなで使える体制などが整えられればいいのではないか。

（NPOふるさと歴史保存会）

- ・ 催しを行なうのに会場の確保が大変である。

（小田原パリ祭実行委員会）

- ・ PRに苦勞している。結果的には多くの方に来ていただいたが、これからもいろいろな方法でPRしたい。東京では50回を超える音楽会で、それと同じものを小田原でも開催した。

- ・ 広報の協力をいただけると助かる。名義後援をいただいたが、チラシをおいてもらっただけである。文化振興ということであれば、市が後援や協賛などをする必要なのではないか。チケットがはじめのうちはなかなか売れなかった。

(小田原医師会合唱団・ハミングバード)

- ・ この懇話会には様々な分野の方が入っている。いろいろな分野の方の情報が集まれば良いのではないか。文化は子ども達の心の育成に大切である。子どもたちが文化に触れる機会をよりいっそう増やしていただきたい。

(社団法人日本詩吟学院認可駿河岳風会)

- ・ 若い人だけでなく、高齢者でも元気な人に対してもPRしたい。機関紙やHPなどで情報発信しているが、会員に止まってしまう。伝統文化を広く伝えたいという思いでやっている活動なので、地域、市民の皆さんに対しての情報発信の協力をお願いしたい。

(巨櫓の居)

- ・ 場の提供をしている。例えば古い建物を使って、新しいジャズをやるとか、ひとつの場を中心にして様々な文化が交流する文化のクロスオーバーが大事なのではないか。そのような場を作っていただければと思う。今日の名簿も配っていただければ、後日でも情報交換が出来たのではないか。

(3) 講演

テーマ「小田原の森林再生と職人技術の復権」

省略

以上で議題は終了し、次回の日程を確認して会議は終了した。

なお、第3回の会議は10月10日に開催する。